

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 5 月 11 日

事業所名 はぐハウスⅡ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	活動内容に合わせて広さや使い方を工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	86%	14%		配置基準は満たしているため、児童の様子や支援内容、行事によってシフトの工夫をする。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%		整理整頓を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	換気、消毒を行っている	危険のないよう常に安全、清潔に環境整備を行う。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	86%	14%	会議を毎月行っている	出席の難しい職員の参加方法を検討し工夫していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	アンケート結果については話し合いながら、業務改善に努めている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	86%	14%	ホームページで公開している。	全職員への周知に努める。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	43%	57%		外部評価を行ってもらう。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	71%	29%	医師、スタッフによる講習会、勉強会を行っている。	積極的に参加して、職員全員のスキルアップに努める。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	独自のアセスメントツールを作成しており、面接や電話連絡でも情報収集を行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	71%	29%	独自のアセスメントツールを使用し、個々の特性や状況をもとに作成している	職員全員で共有するようになる。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	目標の達成や課題を保護者と共有し作成している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	支援計画を全職員で共有して支援を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	86%	14%	保育士を中心にしている。	全職員への周知に努める。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	個々の特性や状況を考慮しプログラムを作成している。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	個々の特性を十分に理解し個別と集団の必要性を考慮したうえで作成している。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	86%	14%	朝のショートカンファレンスを行っている。	朝のショートカンファレンスは出来ているので、途中の交代時申し送りを継続していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	57%	43%	終了時間が一定でないため、常勤スタッフで行い、翌日申し送りを行う。	終了後も短時間でも、申し送り、打ち合わせを行う。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々の支援を記録しており、スタッフ会議や支援計画の振り返りに活用している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	86%	14%	6ヶ月毎のモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達管理責任者だけにこだわらず、状況にあわせて必要と考える担当者が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	医師、保健師、役所関係者の方々と密に連携を取っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	地域で盛んに支援会議が開かれており、常に連携しながら支援している。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%	医療的ケアの実施に関しては必ず主治医に指示書の記載をお願いしている。また病院で実施するカンファレンスには積極的に参加している。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	担当者会議への参加により情報共有、相互理解を図るよう努めている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	送迎時に先生と情報共有している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%		コロナ収束後には積極的に機会をもっていく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	43%	57%		コロナ収束後には積極的に機会をもっていく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	22%	78%		コロナ収束後には積極的に機会をもっていく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や送迎時の申し送り等で情報交換、共有を行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	43%	57%		ペアレントトレーニングの勉強が必要である。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	情報収集を行って、現場職員と話し合いを行い、個々にあった支援の計画を作成している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	モニタリング時や悩みや困り事等の相談があった時に傾聴し、助言を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		コロナの影響で自粛しているがコロナ収束後には保護者会を計画していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	敏速な対応が出来るように整備している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎月1回おたよりを渡し、支援活動報告を行っている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	個人情報の取り扱いについて保護者と書面で確認している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	43%	57%	季節の行事に参加していただいている	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	各マニュアルを作成している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	消防、災害訓練は、年間計画のなかで立案し実際に行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	契約時の確認と医療連携用紙更新時、変更のあった際の確認を徹底している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	医師からの指示書をいただき、保護者からも聞き取りを行い対応している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハットは積極的に書き、毎月の会議で報告、対応策の検討、改善を図っている。	出来るだけすぐにミーティングをし、記録を皆で共有し、定例会議でも発表し共有する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	71%	29%	外部研修への参加と施設内でも研修を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	支援計画への記載と職員間での検討、保護者への説明と確認同意のもとに行っている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。